UMY UNIVERSITAS MUHAMMADIYAH YOGYAKARTA Unggul & Islami | PENDIDIKAN BAHASA JEPANG

日本語学習者における依頼表現の多様性

Thamita Islami Indraswari (thamita.indra@umy.ac.id)
Wistri Meisa (wistri.meisa@umy.ac.id)

Introduction・はじめに

依頼表現を表す文型は初・中・上級の日本語の教科書によく載せてある。依頼表現は日常生活によく使用されるため、日本語教科書にも一つの科目として入れている。学習者によく教える依頼表現を表す文型は次の表に見られる

依頼表現を表す文型	
～て	ください
	いただけませんか
	くださいませんか
	いただけないでしょうか
	もらえませんか
	もらえないでしょうか
～させて	いただけませんか
	もらえませんか
	もらえないでしょうか
	いただけないでしょうか
お願いします	
お願いできますか	

ジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科に依頼表現は一年の最初の学期から四年の6学期まで教え続けられている。文型表現の授業で勉強された依頼表現は会話・聴解・読解などの授業で復習されている。ただし、そこで疑問がある。数学期に分子される多数の文型表現の学習、他の授業での復習、そのことで学習者は多様な表現が使用できるかという疑問が出てきた。日本語での交信には文法の知識、文化理解やコミュニケーションストラテジーなどが必要である。

従って、日本の文化・日本語学とその言語の適用に対する研究が重要になる。日本語教育では日本語母語話者に注目する研究も重要であるが、日本語母語話者ではない学習者に注目する研究も重要視がある。それは学習の成果を図るために行われる必要がある。本研究はインドネシア学習者における依頼表現の多様性に注目する研究であり、本研究の結果より学習の成果も見られ、それを基づく教授法の開発という研究にもつながっていくと考えられる。

Problem Identification・研究の問題

① 学習者における場面による依頼表現にはどのような文法標識が出るか。

②学習者における場面による依頼表現はどのような多様性があるか。

③学習者における場面による依頼表現にはどのような文の要素が出るか。

④学習者における場面による依頼の流れはどのような流れが出るか。

Research Methods・研究方法

本研究は社会言語学に注目する質的記述研究であり、学習者における依頼表現の多様性を次のように記述される:

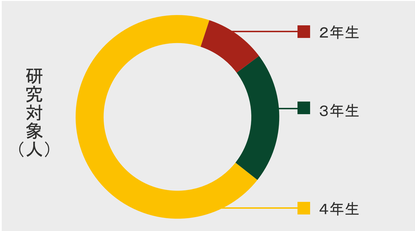
- 場面（依頼の理由・談話目標・相手）
- 使用域（Register）（依頼表現・依頼の流れ）

研究対象

2017-2018年度ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の学生が本研究の対象である

研究対象は有意サンプリングで決められ、依頼表現の授業を受けた学生に限定されている。

研究対象は合計24名となり、次のような分子で見られる。



データ収集

研究対象における言語多様性をデータ表に書き取り、そのデータを分類する。

アンケート調査：オープンアンケート、または公開型アンケートを使用し、そこに場面の説明や言葉の意味などが載せている。

場面①：学生より先生に対し、奨学金を応募するために推薦状をお願いする。

場面②：学生同士（後輩と親しく先輩）、後輩は先輩がお寿司の作りが上手だと聞いたら、その先輩にお寿司の作り方を教えてもらいたい。

アンケート調査は二つの方法で配り、教室内で直接にペーパーの申込書に書いてもらい、オンラインでGoogle formを用いりアンケート調査も行われた。

Data Analysis・データ分析

本研究はコーディングとカテゴリ化でデータを分析した(Emzir(2012:137)によるStraussとCorbin (1990:58))

①現象のタッグ：場面や依頼表現の標識にラベルを付ける。

②場面・表現・依頼の流れというカテゴリを観察する。

③②番のカテゴリを次のように名づけられた。

＋ 場面による表現
＋ 依頼表現の標識
＋ 依頼の流れ

④③番に発見されたカテゴリの分析からカテゴリの派生をする。

⑤結論を出す

Research Result・研究の結果

>学習者における場面による依頼表現の文法標識

>場面①では「いただく」、「おねがい」、「くださる」、「できる」、「もらえる」五つの依頼表現の文法標識が見つけられた。

>場面①でよく使われる依頼表現は「いただく」の標識であり、特に「～ていただけないでしょうか」という文型が最も多かった。

>場面②では「いただく」、「おねがい」、「くださる」、「もらえる」、「くれる」、「もらう」六つの依頼表現の文法標識が見つけられた。それらの標識ではそれぞれ八つの表現多様性を持つとわかった。

> 場面②でよく使われる依頼表現は「くださる」と「もらえる」の標識であり、特に「～てください」と「～てもらえませんか」という文型が最も多かった。

> 学習者における場面による依頼表現の種類

> 場面①で見つけられた依頼表現の種類は五つあり、次のように述べられる。

a) 願望表出系依頼表現＋許可の問い掛け系依頼表現
（13) せんせい、おはようございます。せんせい、おいそがしいところおじゃまして、すみません。このまえ、しょうがくきんのプログラムがあるのをおききしたのですが、そのプログラムに申し込みをしようと思います。そのために、先生にすいせんじょうをきいていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか

b) 許可の問い掛け系依頼表現
（15) 私は先生からそのしょうがくきんのためにすいせんじょうを書いていただけないでしょうか。

c) 許可の問い掛け系依頼表現＋遂行系依頼表現
（27) 先生、申し訳ありません。私は大学からの奨学金を希望したいなのですが、学科からの推薦書が必要なんです。推薦書を書かせて頂いてもよろしでしょうか。お願い致します。

d) 遂行系依頼表現＋許可の問い掛け系依頼表現
（9) 先生、すみません。おねがいがあるんですが、きのうしょうがくきんことをよみました。私はこのしょうがくきんをもらいたい。すいせんじょうをかいていただけないでしょうか。

e) 要求系依頼表現
（21） 先生、おいそがしいところすみません。きのうPBJのfpにお知らせがあります。ないようはしょうがくきんのことです。じつはそのしょうがくきんをとりたいので、すいせんじょうをくださいませんか。ありがとうございます。

> 場面②で見つけられた依頼表現の種類は三つあり、次のように述べられる。

a) 許可の問い掛け系依頼表現
（42)先輩すみません、先輩がすしを作る上手ですね、おしえてもらてもいいですか。

b) 命令形依頼表現
（12）せんぱい、すしの作り方をおしえてください。

c) 要求系依頼表現
（18）せんぱい、すしの作り方をおしえてもらえませんか。

> 学習者における場面による依頼表現の要素。

a) 場面①では十の要素が発見された。この場面によく出た依頼表現の要素は要素タイプ2の「呼びかけ（謝罪）ー依頼の理由ー主部行為」である。

b) 場面②では十の依頼表現の要素が発見された。この場面によく使われる依頼表現の要素はタイプ19.の「呼びかけと理由を言わず、直接に主部行為を示す」

Irai Hyougen Flow Type Based on Situation 1

No.	Irai Hyougen Flow Type	Frequency
1	alerter, headact+supportive move, supportive move, headact	2
2	alerter, supportive move, headact, supportive move	1
3	alerter, supportive move, headact, supportive move, supportive move, headact	1
4	alerter, supportive move, supportive move, headact	2
5	alerter, supportive move, supportive move, supportive move, headact	1
6	alerter+headact	1
7	alerter+supportive move, headact	4
8	alerter+supportive move, headact, supportive move+headact	1
9	alerter+supportive move, supportive move, headact, headact	1
10	alerter+supportive move, supportive move, supportive move, headact	1
11	alerter+supportive move, supportive move, supportive move+headact, supportive move	1
12	alerter+supportive move, supportive move, supportive move+headact, supportive move+headact, supportive move	1
13	alerter+supportive move, supportive move+headact	1
14	alerter+supportive move, supportive move+supportive move+headact	1
15	Uncategorized	5

場面1には二つの流れが発見された。

a) 呼びかけ（Alerter）→ 主部行為（Head act）→ 補足行為（Supportive move ）

b) 呼びかけ（Alerter）→ 補足行為（Supportive move ）→ 主部行為（Head act）

その二つの流れから14のタイプが派生された。それらのカテゴリは以上の表に見られる。以上の表により最も頻度が多かったカテゴリは⑦番であり、例のデータは次のように見られる。

(25) 先生、すみません。(alerter+supportive move)
奨学金のために推薦状を書かせてもらえませんか。(headact)

Irai Hyougen Flow Type Based on Situation 2

No.	Irai Hyougen Flow Type	Frequency
1	alerter, headact	2
2	alerter, supportive move, headact	2
3	alerter, supportive move, supportive move, headact	2
4	alerter, supportive move, supportive move, supportive move, headact, supportive move	1
5	alerter+headact	5
6	alerter+supportive move, headact	6
7	alerter+supportive move, headact, supportive move	1
8	alerter+supportive move, supportive move, headact	3
9	Uncategorized	2

場面2には八つの流れが発見された。以上の表により最も頻度が多かったカテゴリは⑥番であり、例のデータは次のように見られる。

(2) 先輩、すしが作ることが上手ですね！(alerter+supportive move)
私にすしをつくり方がおしえてください。(headact)

Conclusion・結論

>研究結果から次のようなことが明らかになった。学習者はどのような場面でも同様な使用域（**Register**）を使用する傾向がある。

a)学習者によく使用される依頼表現の使用域（Register）は「お願いがあるんですが」、「おねがいします」、「～ておねがいします」、「～ていただく」、「～いただけませんか」、「～させていただけないでしょうか」、「～もらってもいいですか」、「～てもらえませんか」、「～くださいませんか」、「～てください」、「～てくれませんか」、「～ことができますか」、「～できませんか」

b)両方の場面に発見された同様な使用域（Register）は「いただく」、「おねがい（する）」、「くださる」、「もらえる」

>両方の場面では情意表出系依頼表現が学習者に登場していない。

a)場面①では依頼を伝える際に複数の依頼表現を使う学習者がいた。ただし、そのことは場面②では見つけられなかった。さらに、場面②で学習者は遠距離をせずに一つのみの表現を主部行為に進むことが一般だとわかった。

b)学習者は話し相手によって表現を区別する。先生に話す際に「許可の問い掛け系依頼表現」を使用する傾向がある。それに対して、学生同士の先輩と話す際に「命令形依頼表現」がよく使われるとわかった。

>一般的に学習者が使う流れの要素は結構揃っている。それは、呼びかけ・依頼文・理由である。

a)先生に対する依頼では呼びかけ無しで二つの流れが出たとわかった（タイプ9とタイプ10）。この件で学習者は主部行為と補足行為のみで依頼をした。

b)依頼タイプ①：「呼びかけ（情報の確認）ー理由を述べるー依頼文」は先生と先輩、両方の場面で学習者に使われている。

c)学習者は先生に話す際に、「呼びかけ（お詫び）ー理由を述べるー依頼表現」という流れで依頼する

d)学習者は先輩に話す際に、呼びかけと理由を述べず、依頼表現のみで直接に依頼をする。

References・参考文献

Eaton, Sarah Elaine. 2018. Language Register and Why It Matters (Or: Why You Can't Write An Academic Paper in Gangsta Slang [Online]. Tersedia: https://drsaraheaton.wordpress.com/2012/05/22/language-register-and-why-it-matters-or-why-you-cant-write-an-academic-paper-in-gangsta-slang/ [09 April 2018]

Emzir. 2012. Metodologi Penelitian Kualitatif Analisis Data. Jakarta: Rajawali Press

Gong Wei. 2015. 'Nihongo no Irai Hyougen ni Mirareru Danjosa: Terebi Dorama no Serifu o Tooshite' [Online] .Bulletin of the Social System Research Institute Chuo Gakuin University 16(1), 1-12, 2015-12-01. Tersedia: https://cgu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=248&item_no=1&page_id=13&block_id=21 [14 Maret 2018]

Chaer, Abdul dan Leonie Agustina. 2004. Sosiolinguistik Perkenalan Awal. Jakarta: Rineka Cipta

Iori Isao. 2000. Shoukyuu o Oshieru Hito no Tame no Nihongo Bunpou Handobukku. Tokyo: 3A Corporation

Kridalaksana, Harimurti. 2009. Kamus Linguistik Edisi Keempat. Jakarta: Gramedia Pustaka Utama

Mizutani Osamu dan Mizutani Nobuko. 1991. How to Be Polite in Japanese. Tokyo: The Japan Times

Nordquist, Richard. 2018. What is Register in Linguistics? [Online]. Tersedia: https://www.thoughtco.com/register-language-style-1692038 [09 April 2018]

Nordquist, Richard. 2017. Linguistic Variation [Online]. Tersedia: https://www.thoughtco.com/what-is-linguistic-variation-1691242 [09 April 2018]

Noro Kenichi. 2015. 'Gendai Nihongo no Irai Hyougen ni Okeru Hyouka Mitomekei no Hirogari' [Online]. Takada Tanki Daigaku Youin 33, 87-95, 2015-03. Tersedia https://ci.nii.ac.jp/els/contents110009910458.pdf?id=ART0010444603 [14 Maret 2018]

Ohoiwutun, Paul. 2007. Sosiolinguistik – Memahami Bahasa dalam Konteks Masyarakat dan Kebudayaan. Jakarta: Visipro

Richards, Jack C. dan Richard Schmidt. 2010. Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics. Edinburgh: Pearson Education Limited

Sudaryanto. 1993. Metode dan Aneka Teknik Analisis Bahasa. Yogyakarta: Duta Wacana University Press

Takadono Yoshihiro. 2000. 'Nihongo to Indoneshiago ni Okeru Irai Hyogen no Hikaku' [Online]. Journal of International Relations, Asia University 9 (1) , 353-367. Tersedia http://ci.nii.ac.jp/naid/110000539994/en/ [14 Maret 2018]

Wray, Alison dkk. 1998. Projects in Linguistics. London: Arnold

Young, Jennifer. 2012. How Did That Register?Five Levels of Formality in Language [Online]. Tersedia: https://www.altalang.com/beyond-words/2012/05/01/how-did-that-register-five-levels-of-formality-in-language/ [09 April 2018]

3A Network. 2008. Minna no Nihongo Chukyu I. Tokyo: 3A Corporation

_____. 2012. Minna no Nihongo Chukyu II. Tokyo: 3A Corporation

_____. 2009. Minna no Nihongo Shokyu I. Surabaya: IMAF Press

_____. 2000. Minna no Nihongo Shokyu I Terjemahan dan Keterangan Tata Bahasa. Tokyo: 3A Corporation

_____. 2008. Minna no Nihongo Shokyu II. Surabaya: IMAF Pres